

# 兵庫NIEニュース

第60号

発行 兵庫県NIE推進協議会

〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7 神戸新聞社内  
TEL (078) 362-7054 FAX (078) 362-7424

E-mail hyogo-nie@kobe-np.co.jp HP http://www8.kobe-np.co.jp/nie/hyogo/

## 考える力新聞で養おう

2019年度のNIE兵庫セミナー(兵庫県NIE推進協議会主催)が7月5日、神戸市中央区のよみうり神戸ホールで開かれ、県内外の小中高校や大学の教員ら約50人が参加した。  
(2面に模擬授業、NIEお勧め授業例の詳報)

### ■ 従軍記者が体験談

共同通信神戸支局の儀間朝浩支局長が、2003年のイラク戦争で米軍の従軍記者だった体験や、1996〜97年の在ペルー日本大使公邸占拠事件で人質解放までの緊迫した取材の様子を伝えた。2018年度NIE実践指定校への記者派遣の一環として、儀間支局長が津名高校(淡路市)で行った講演を再現した。

参加者からは『伝える』ことの使命感の強さに感動した。『戦地の写真に驚いた』『人質を守るため知り得た情報を書くか書かないかの葛藤が興味深かった』などの感想が寄せられた。記者派遣はNIEの取り組みの柱であり、今後も教員に模擬授業を見てもらう機会を増やしたい。

### ■ 人権問題を学習

同協議会の田中茂典コーディネーターと事務局の山畑が担当。性別を巡る不適切な取材をしたテレビ番組が批判を受けた問題について

田中茂典コーディネーターによる人権学習のワークショップ



神戸で19年度兵庫セミナー  
県内外の教諭ら50人参加

## 「明日からできる授業」提案

て、新聞記事を活用し、児童生徒役の教員らがグループで討論。「人を傷つけることが笑いになる風潮は良くない」などの意見が出た。続いて「自分がされたら嫌なこと」を模造紙にまとめ、人権意識を高めた。

今回はテーマの一つが人権問題とあって、犯罪被害者の支援団体からも参加があった。田中コーディネーターらは7月1日、高砂の中学校でも同様のワークショップを行った。人権意識はよりよい社会づくりのベースだ。NIEの取り組みのなかで、教員や児童生徒とともに考えていきたい。

さらに秋田会長は、新聞紙面とネットニュースでの記事の取り扱われ方について、実際の紙面を使ってその違いを示し、ニュースを価値つけて読者に提供する新聞の有益性と、教育に新聞を用いる有用性に触れてきた。

### ■ たまごまな活動例

同協議会の秋田久子会長が自身の取り組みをもとに、新聞を活用した授業例を紹介した。①投書欄で好きな投稿を見つけ返信を書いてみる②コラムを書き写す③気になるテーマを定点観測し、自分の将来について考える一などで、秋田会長は「答えが分からない問題を考える続ける体力を身に付けることが大切」と強調し、会場から「共感した」との声が上がった。

### ■ 参加者の感想から

「NIEにどのような教育効果が期待できるかがよく分かった」「NIE展開はあすから実践できる提案があり、参考になった」「ワークショップの発問の仕方や結論への導き方が参考になった。知識を押し込むだけでなく、子どもたちの知的好奇心を刺激していきような仕掛けを考えていきたい」など好意的な意見が多かった。

一方で、「ワークショップは実際の授業風景を想定できる字びだったが、参加者(大人)と児童生徒の感覚の差も示してほしい」「人権は簡単には教えられない。工夫したい」などの意見もあった。「時間(2時間15分)が短く、質問するのをためらった」との声もあった。もりだくさんの内容を心掛けたが、タイトな時間設定は気になっていた。

「7月の平日は忙しいので、教師は出席しづらい」「エアコンが効いて快適な会場だった」との意見もあった。開催時期・曜日や会場選についてはいつも頭を悩ませている。参加者の声を受け止め、今後、よりよいセミナーを模索していきたい。

(兵庫県NIE推進協議会 事務局長)

# 実践指定校 県内20校承認

兵庫県NIE推進協議会の2019年度総会が5月24日、神戸市中央区の県民会館で開かれ、本年度の実践指定校を20校とするなどの事業計画や予算案を承認した。新規事業では、同協議会ホームページのリニューアルと、中一貫校でのNIE実践推進を図る。



あいさつする県推進協議会の秋田久子会長＝神戸市中央区

同協議会の秋田久子会長は「20～30代の若手の先生にも新聞離れの傾向がある。新聞を日常的に読み、活用してもらいたい。具体的なNIE展開例を紹介し、関心を高めたい」とあいさつした。同協議会顧問の西上三鶴・県教

## 県推進協議会19年度総会

育長は「学校広報の作成では新聞の手法を参考にしており、授業でも活用したい」、同じく顧問の長田淳・神戸市教育長は「新聞で情報を読み比べることで、多面的な考え方が養われる」と述べた。総会では18年度の記者派遣実績や収支・会計監査報告も承認した。県内の実践指定校は次の通り。  
【小学校】新規⇒神戸市立六甲アイランド、姫路市立豊岡、洲本市立鳥飼、淡路市立志筑、継続⇒神戸市立向洋、加古川市立川西、養父市立建屋  
【中学校】新規⇒猪名川町立中谷、姫路市立豊岡、継続⇒尼崎市立大庄北、神戸市立山田、西宮市立木  
【高校】新規⇒神戸市立神港橋、県立柏原、県立加古川南、県立三田西陵、県立神戸鈴蘭台、継続⇒県立武庫荘総合、県立津名  
【特別支援学校】継続⇒県立神戸聴覚

## 全国では545校指定

日本新聞協会は7月11日、新聞を生きた教材として活用する「NIE(教育に新聞を)の2019年度実践指定校に全国545校を正式決定した。兵庫県では20校が指定された。兵庫県では20校が指定された。545校の内訳は小学校220校、小中連携7校、中学校176校、

中高連携7校、高校124校、特別支援学校11校。兵庫県は小学校7校、中学校5校、高校7校、特別支援学校1校。指定は原則2年間で、各校は、購読料を新聞協会と新聞社が全額負担する新聞6紙の提供事業や、県内に拠点を置く6新聞社2通信社が分担する記者派遣事業などを利用できる。

中高連携7校、高校124校、特別支援学校11校。

## 模擬授業

共同通信神戸支局長・儀間朝浩氏の模擬授業の要旨は次の通り。

共同通信・儀間朝浩神戸支局長

中東にイラクという国がある。2003年に戦争があった。大量破壊兵器を所持していると疑った米国がフセイン政権を倒した。そのとき、米軍に同行してイラクで取材した。そのときの写真を紹介する。高校を卒業したばかりの18歳の兵士と同じ装甲車で移動した。銃撃戦も経験した。イラクは戦後、テロが続発した。過激派「イスラム国」はそこで生まれ、欧州の都市でテロを起こした。イラクの取材は危険で、防弾車で移動した。

## 一見異なるニュースに関連性

阪神・淡路大震災のときはイランにいた。核兵器開発をやめる代わりに欧米が経済制裁を解除する合意をしたが、トランプ大統領が覆した。安倍晋三首相がイランに仲介し、北朝鮮の指導者とはトランプ大統領が会談した。一見異なるニュースの関連を考えるのも面白い。

ペルーでは1996年に起きた大使公邸人質事件も4カ月取材した。当時のフジモリ大統領が秘密のトンネルから特殊部隊を突入させ解決した。トンネルの存在に事前に気づいたら、あなたなら記事にするだろうか。記者が悩む場面は多い。多くのニュースの中で面白いと思ったことを自分で調べることが大切だ。興味を持つことがきつとあるはずだ。それを深く知ろうとすることが大事だ。

## NIE兵庫セミナー詳細

## お勧め授業例

県推進協議会・秋田久子会長

兵庫県NIE推進協議会・秋田久子会長による新聞を活用した授業例「おすすりめ!教科指導外のNIE活動」は、参加した教員から「すぐ実践できる」との感想が数多く寄せられた。四つのプログラムを紹介する。  
【中学生向き】  
〈投書にお返事〉投書を3～4点選んでそれぞれに記号を付ける。返信用紙と合わせて配布する。5分程度で返信を書かせる。人権に関わる作品以外はすべて掲示する。  
〈コラムの視写〉読者の随想を週1回、3分で視写し、視写できた行数を記入させる。

## 4プログラム 教員からも高評価

〈私って、こんな分野向きかな?〉1週間2～3回程度、気になる記事を切り取って模造紙に貼る。記事の横に日付・新聞名・切り取った理由を簡単に記入する。2カ月後、その模造紙を掲示して1人2分で発表する。  
【高校2年3学期・3年2学期向き】  
〈気になるテーマで定点観測〉将来の進路・分野について考えさせる。2週間ほどで「気になるテーマ」を決めさせる。テーマを選んだ理由と、そのテーマの現実がこれからどんな方向に進むか予想を書かせる。テーマに関連した記事を7～8枚集めさせる。A3判1枚のリポートを書かせる。選んだ理由、記事を読んで考えたこと、10年後の予想。1人2分程度で発表する。または全員分を掲示する。

県立多可高校・植山正彦教諭 在ペルー日本大使公邸占拠事件で、突入前に秘密のトンネルの情報を得た儀間氏が記者として感じた葛藤を、生徒に追体験させたいと考えた。  
県立神戸聴覚特別支援学校・津守温子教諭 「人権学習」と聞くと難しいテーマととらえがち

だが、私たちの生活の中で起こる身近な問題とあらためて気づき、向き合い考えることができた。  
丹波市立新井小学校・小林敬子教頭 すぐ使える授業実践例を提示していただいた。子どもたちの視野を広げ、社会とのつながりをつくるため新聞の力は重要だとあらためて感じた。

## 18年度の実践報告書発行

兵庫県NIE推進協議会は、2018年度の実践報告書(A

4判96頁)を発行した。同年度の実践指定校20校(小学校7校、中学校4校、中高一貫1校、高校7校、特別支援学校1校)から、新聞を教材とした

授業の成果などが報告されている。400部を製作。同推進協議会と日本新聞協会NIEのホームページでも公開している。

# NIEアドバイザー各地で研究活動

日本新聞協会が任命するNIEアドバイザー。地域のNIE普及・発展のリード役で、兵庫では現在、NIEの実践経験豊かな10人の先生たちに務めてもらっている。アドバイザーによる最近のNIE研究活動を紹介します。

## 記事から熟語探そう

### 明石・二見西小でワークショップ

明石市のNIE研究会が探すなどのワークショップ6月24日、同市二見町の二見西小学校で、本年度の第1回研修会を開いた。若手教諭4人とベテラン教諭1人の計5人が参加。同校の若生佳久主幹教諭が講師となり、NIEや新聞活用方法について説明。新聞紙面から「文字数の多い熟語」を



紙面から文字数の多い熟語を探す教諭たち。二見西小学校

になり、自然と記事を読み進めていくようになることや、10文字以上の言葉を見つけたときには教室から歓声があがった経験を話し、参加した教諭が実際に取り組んだ中では17文字が最高だった。切り離れた4コマ漫画の「心に響く投書とは」

## 「心に響く投書とは」

### 姫路・白鷺小で読み比べ授業

研究会の本年度のテーマは「情報化社会とNIE」。学校現場での新聞活用の広がりをめざして。若生主幹教諭は、新聞を「作る」「読む」「資料として使う」「活用する」「新聞の仕組みを知る」などの活用方法があることを紹介した。

読者の心に届く新聞投書について考える授業が6月13日、姫路市本町の白鷺小学校で開かれ、小学6年生34人が参加した。

授業の後、吉田教諭と参観した同校教諭や姫路市教委指導主事らが授業のNIE的な効果について意見を交換した。

「活用する」「新聞の仕組みを知る」などの活用方法があることを紹介した。ワークショップでは、これまでの授業で利用してきた自作のワークシートを紹介した。「犬のふんは飼いが持たなければならない」「小さなこどもでも毎日チャレンジすることが大切」という内容で、児童も「熟語探し」に懸命

8班に分かれて話し合った。日本新聞協会NIEアドバイザーでもある吉田裕美局長(兵庫県NIE推進協議会事務局)

## ボード使って大切な点整理

姫路市立白鷺小中学校 吉田裕美教諭

「新聞の投書を読み比べよう」二見「東京書籍」小学6年生を学習するにあたり

## アドバイザー名簿

- 【2019年度兵庫県NIE推進協議会特任アドバイザー】(順不同)
- 津田康子・伊丹市天神川小学校校長
- 増田和幸・神戸市立上野中学校
- 中川真野・真野小学校
- 中川真野・真野小学校
- 山田中學校校長
- 透・県立川西明峰高校校長
- 美・姫路市立白鷺小中学校 東高校教諭
- 【一般社団法人日本新聞協会NIEアドバイザー】(同)
- 高砂市立松陽中学校教諭
- 山田中學校教諭
- 中野順一
- 高井浩子・姫路市立大の中学校教諭
- 佐伯奈津子・姫路市立朝日中学校教諭
- 榎田安史・県立鳴尾高校教諭
- 佐々木浩二・県立姫路東高校教諭

兵庫NIE推進協議会会長	久子	兵庫NIE推進協議会会長	久子
兵庫NIE推進協議会副会長	三鶴	兵庫NIE推進協議会副会長	三鶴
神戸市教育長	淳	神戸市教育長	淳
兵庫NIE推進協議会副会長	中村	兵庫NIE推進協議会副会長	中村
兵庫NIE推進協議会副会長	白井	兵庫NIE推進協議会副会長	白井
兵庫NIE推進協議会副会長	前川	兵庫NIE推進協議会副会長	前川
兵庫NIE推進協議会副会長	摺河	兵庫NIE推進協議会副会長	摺河
兵庫NIE推進協議会副会長	上月	兵庫NIE推進協議会副会長	上月
兵庫NIE推進協議会副会長	武久	兵庫NIE推進協議会副会長	武久
兵庫NIE推進協議会副会長	山本	兵庫NIE推進協議会副会長	山本
兵庫NIE推進協議会副会長	後藤	兵庫NIE推進協議会副会長	後藤
兵庫NIE推進協議会副会長	浅見	兵庫NIE推進協議会副会長	浅見
兵庫NIE推進協議会副会長	篠田	兵庫NIE推進協議会副会長	篠田
兵庫NIE推進協議会副会長	小林	兵庫NIE推進協議会副会長	小林
兵庫NIE推進協議会副会長	長沼	兵庫NIE推進協議会副会長	長沼
兵庫NIE推進協議会副会長	脇田	兵庫NIE推進協議会副会長	脇田
兵庫NIE推進協議会副会長	廣瀬	兵庫NIE推進協議会副会長	廣瀬
兵庫NIE推進協議会副会長	島内	兵庫NIE推進協議会副会長	島内
兵庫NIE推進協議会副会長	三好	兵庫NIE推進協議会副会長	三好
兵庫NIE推進協議会副会長	田中	兵庫NIE推進協議会副会長	田中
兵庫NIE推進協議会副会長	山畑	兵庫NIE推進協議会副会長	山畑

## 2019年兵庫NIE推進協議会名簿(7月現在)

て、実際に投書を読んだことのある児童が40%、投書をしたことがある児童が0%という実態の中で、いかんかという児童も、グループで友だちの意見を聞くことで、新しい考えを共有。色分けされた黒板の表に、ホワイトボードに書いた意見を分

2019年度の新規NIE実践指定校11校の校長と実践代表者に本年度の抱負を寄稿してもらった。多様な取り組みがそろった。(敬称略)

### ■NIE実践指定新しい11校が抱負

#### 多面的な見方 考え方を養う

【神戸市立  
六甲アイランド小学校】

校長 繁田恭治  
実践代表者 酒井秀幸

活字離れが進み、子どもたちの読書時間が年々減少している。教員の中にも新聞離れの傾向が見られる。今回、本実践に取り組むことで期待する三つの効果は①メディアリテラシーの向上を図る②リアルタイムに動く社会動向をつかむ③数種の新聞を通して、多面的な見方・考え方を養うである。今後、表現力の向上を目指し、楽しみながら取り組んでいければと思う。

#### 新聞を使って 調べる力育成

【姫路市立豊富小学校】

校長 阪本 靖  
実践代表者 川村かおり

本校は幼稚園・中学校とともに「調べる力」の育成に取り組んでいる。今後図書やインターネットなどの情報に新聞というツールを組み合わせ、取り組みを進めていく。現

#### 各社読み比べ 表現力に磨き

【洲本市立鳥飼小学校】

校長 木田留美  
実践代表者 四丸千尋

本校は「新聞に親しもう」新聞を活用し、表現できる子の育成をテーマに本年度NIEの実践を進めていく。情報を正確に伝えるための新聞が、どのように構成され、表現されているのかを、各社の新聞を比較することで、よりよい表現の方法に気づかせたい。また、その学びを新聞製作に生かし、伝えたい情報を他者に伝える表現力の向上を目指す。

#### 子どもたちに 課題解決力を

【淡路市立志筑小学校】

校長 山本 哲也  
実践代表者 南 志乃婦

これからの子どもたちには

#### 真贋を問う力 養成を目指す

【姫路市立豊富中学校】

校長 山下雅道  
実践代表者 井上佳尚

「主体的、対話的で深い学び」を生み出す授業が欠かせない。新聞活用で、社会や地域に目を向け、記事をもとに学び合う児童を育成したい。語彙を増やし、表現力を高め、教科の学びにつなげ、知識の質を向上させていく。それが探究的なプロセスで、社会や地域から課題を見つけ、主体的に解決する子どもの育成につながることを確信している。

#### 「ちよい読み」 朝礼でも推奨

【猪名川町立中谷中学校】

校長 石上勝久  
実践代表者 千葉 舞

本校は、学力向上の取り組みの一環としてNIEを推進している。ロビーにNIEコーナーを設置し、本校図書館司書と連携して毎日話題の記事を掲示。休み時間に記事について談笑している姿が見られる。全校朝礼では、校長が「ちよい読み」について講話し、実際に記事を使って実践した。NIE実践でグローバルな視点を持ち、主体的に学習する生徒を育てたい。

#### 批判的な視点 会得する機会

【県立柏原高校】

校長 井上千早彦  
実践代表者 久保哲成

昨年、阪神・淡路大震災に関する調べ学習を行った際、新聞縮刷を活用する場面があり、活字の海から必要な情報を見つけ出す力の必要性を強く感じた。あふれる情報の中から自らに必要なものを選び、その真贋を問う力をぜひ付けてほしい。新聞を通じ、この先10年間を見通し、次の時代を渡り歩くことのできる生徒育成に取り組みたい。

#### 時事問題学び 将来に備える

【神戸市立神港橋高校】

校長 谷口元庸  
実践代表者 高野剛彦

本校は開校4年目の商業高校(みらい商学科)で、約4割の生徒(1学年320人中)が就職を希望している。進学希望者も多くがAOや推薦入試で、いずれも時事問題は必須である。新聞に少しでも親しんでもらおうと自習室(小講義室)の前に並べ、これはという記事は壁に掲示している。また朝の10分間学習(Lタイム)でもワークシート新聞に取り組んでいる。

#### 3年先見越し 動ける生徒に

【県立三田西陵高校】

校長 田畑吉三  
実践代表者 鹿田尚宏

本校では18年度より総合的な学習(探究)の時間で「3年間を見通したキャリア形成」をテーマに活動を展開している。今回、NIE実践の指定を受けたことを機に、新聞を活用した主体的な学びを目指す。広い視野に立つて自分の考えを述べる「小論文講座」や自らテーマを設定して進める「課題研究」などに取り組み、さらには教科・科目での活用も図っていききたい。

#### 世の中の問題 身近に感じて

【県立加古川南高校】

校長 原 実男  
実践代表者 西澤和美

1年次の各クラスでNIEの係を2人ずつ決め、各自が毎週さまざまな分野の記事を切り抜いて模造紙に貼り、ポイントや要約感想をマジックで書き、廊下に貼り出している。貼り出すことで、世の中が起こっている現象や問題、身近で活動している方々を知らせることができている。今後は2年次からの課題研究論文執筆に向け、テーマ探しに

#### 経営者招いて インタビュ

【県立神戸鈴蘭台高校】

校長 島田育生  
実践代表者 鶴岡 愛

本校では「総合的な学習の時間」において、5年前から高大連携および外部講師の活用を積極的に行ってきた。本年度は初の試みとして、地元神戸の経営者を招いて生徒がインタビュを行い、壁新聞を作成する講座を開講する。新聞を活用し、生徒の読解力に加え、論理的思考力や表現力、コミュニケーション能力を養いたいと考えている。

アドバイザーも紹介させていただきます。

◆県NIE推進協にお問い合わせを NIE実践指定校の取り組みや「そもそもNIEとは何か」など、NIEについてお知りになりたい方は、兵庫県NIE推進協事務局 ☎078・362・7054までお問い合わせください。